

沿岸域における 漁船漁業ビジネスモデル研究会

発行日：平成29年2月28日

「同じ漁場を利用する底びき網の船頭さん達に提案し、将来に向けて資源を維持し価格を維持するためにも、むやみに魚を獲るのではなく、お互い相談して水揚量を調整しよう」

右：石倉漁労長と乗組員の皆さん

左上：漁獲物を活魚出荷するためにしている創意工夫の取り組み

左下：揚網する網に群がる海鳥たち

(写真：開発調査センター 山下秀幸、宮原 一)



- 相馬双葉漁業協同組合請戸地区における底建網導入に向けた取り組み
- 福岡県の直売の取り組みについて
- 明るい漁業の未来に向けて ～孫へつなぐ漁業の夢～

本研究会では生産～消費に至るあらゆる英知を結集し、漁業で儲かる仕組みを考えます。本ニュースレターはそのためのツールです。



編集 開発調査センター
国立研究開発法人
水産研究・教育機構

普及指導の現場から No.9

相馬双葉漁業協同組合請戸地区における底建網導入に向けた取り組み

福島県水産事務所 新関晃司

背景

請戸地区は東京電力福島第一原子力発電所から北に約6kmの浪江町に位置しています。東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で、請戸地区の漁業者は全員が避難を余儀なくされているため、現在、近隣の真野川漁港に拠点を移し、漁業を営んでいます(図1)。このような状況下にあるため、請戸地区では、漁労作業に対する人手不足が大きな問題になっています。従来、請戸地区では刺し網を操業する漁業者が多く、網外しの作業等を家族総出で行っていました。しかし、避難生活により家族と離れて暮らす人もいるため、家族の力を借りることが難しくなってきました。そこで、請戸の漁業者は比較的漁労作業の手間が少なく、多くの水揚げが期待できる底建網に着目し、導入に向けた取り組みを行っています。

取り組みの状況

平成26年に「請戸底建網検討委員会」を立ち上げ、底建網導入に向けた活動をスタートさせました。福島県の漁業は、現在「試験操業」という制限された中で操業を実施しており、さらに、底建網は福島県海域で操業されたことが無い漁法のため、当面は「調査」という形で底建網の有効性を調べることにしました。

最初の活動として、まずは実際に底建網漁が行われている青森県や北海道において、操業方法を学んできました。請戸の漁業者にとっては、全く初めての漁法であるため、現地での経験は大きな刺激と勉強になりました。その上で、網を購入し(写真1)、請戸海域に設置し、漁業者自ら漁獲状況や漁労作業の負荷について調査を行いました。

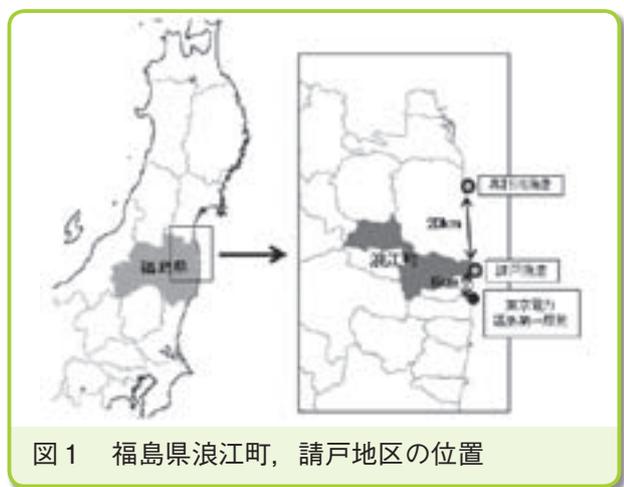


図1 福島県浪江町、請戸地区の位置



写真1 購入した底建網

底建網調査の結果

当初、福島県における新規漁法ということで、網の設置や揚網作業に苦慮する事態がありましたが、漁具の扱いに慣れるにつれ、スムーズな作業が可能となりました(写真2)。平成28年に実施した調査結果の1例を示します。この時は1網あたり、ヒラメ250kg、マアジ30kg、サバ類20kgが漁獲され(写真3)、5人の漁業者が1隻に乗船し、30分ほどで船上作業を終えました。刺



写真2 底建網の揚網作業



写真3 底建網調査で漁獲された魚

し網と比較した場合、わずか30分という作業時間にしては、十分すぎるほどの漁獲量だといえます。加えて、底建網の魚はほとんどが生きたまま漁獲されるため、市場に水揚げした場合、活魚価格で取引されるなど、鮮魚よりも魚価の向上が見込まれます。現在、底建網は特別採捕許可による調査のため漁獲物の販売はしていませんが、今後の展望が期待できる結果となりました。

今後の目標

平成27年から調査を開始して2年が経過し、漁業者の皆さんは底建網に対する手応えを感じています。特に、少ない漁労作業で鮮度の良い魚が大量に獲れることは大きな魅力です。さらに、底建網は、必要な量の魚だけを確認し、残りは船上で放流することが可能なため、資源管理の面でも優れていると考えています。

また、調査を通していくつかの課題も見分かりました。その1つは、福島県沿岸は単調な海岸線が続くため、波浪の影響を直接受けてしまうことです。実際に、海が荒れた直後に網を引き上げると、網が緩んでいて、魚がほとんど入網していないこともありました。今後は、このような海域に適した網の構造、設置方法を探っていく必要があります。

福島県の漁業は着実に復興に向けた歩を進めています。今回紹介した底建網のように、今まで無かった新規漁法の着業を支援すること等によって、操業自粛により増加・大型化した資源を有効に活用する、福島県の新たな漁業のカタチを構築していきたいと考えています。

 **普及指導の現場から** No.10

福岡県の直売の取り組みについて

福岡県農林水産部水産局水産振興課（中央普及指導員室）
専門技術指導員 徳田眞孝

1. はじめに

福岡県は、筑前海、有明海、豊前海とそれぞれ特性が異なる三つの海面と内水面をもち、マダイやフグの漁獲やノリの生産が多い県です。福岡県は、生産者による直売活動も盛んなことから、今般は福岡県での水産物直売の取り組みを紹介します。

福岡県での直売は、約30年前に漁業者が参加する朝市が開設されたことに、端を発し、1990年代には県内各地で多くの定期市が盛んに行われるようになりました。これが、福岡県で直売が盛んになった原点と言えるでしょう。これらの取り組みで、魚を出荷するのは市場だけではなく、自分たちでも売れるという実感を持った漁業者は多いはずです。その証拠に、1990年代中頃から、常設で周年営業される直売所が開設され始めました。最初の頃は、漁協直営の買

取販売型の直売所で、水産物専門の小規模な施設が中心でしたが、2000年頃より地域の行政や生産団体が共同で運営する等の委託販売型の直売所が開設され、これが現在の主流となっています。

2. 福岡県の直売の現状と盛んになった条件

2013年の第13次漁業センサスでは、直売所の数は16箇所、利用者数は539,400人で全国7位となっています。これら直売所の中には、売上が大きな全国有数の直売所も含まれます。また、出荷先別延べ経営体数では2,734経営体の中で468経営体が直売所へ出荷しており、その割合は17%と全国の中では飛び抜けており多くの漁業者が直売所を利用していることが判ります。



JF 糸島志摩の四季 福岡県の代表的な直売所の一つです。



にぎわう直売所の風景（道の駅 むなかた）



量販店では出回らない地元の魚も出品されています。

一般に、漁協や漁業者等が水産物を直売する際には、鮮魚販売業の許可を必要とすることや出荷した魚が売れ残る可能性があることなど、様々な制約やリスクを伴います。また、時化が続けば出品物が少なくなり、客離れにつながるおそれがあります。そのような制約やリスクを伴う中で、福岡県で直売が盛んになったのは次の理由が考えられます。まず、福岡県の漁業の特徴として少量多品種を漁獲する漁業が多いということです。漁業者は市場出荷を主体としていますが、ロットが揃わないことが多々起こります。そういう時でも、小ロットで販売できる直売所への出荷は、漁業経営の上で非常に役立っています。

また、福岡県の都市と漁村の立地的な条件が直売に恵まれていることです。福岡県は510万人の県民を有し、二つの政令都市を抱えるという大きな消費人口があります。さらに、都市部と漁村が近く、多くの消費

者が手軽に直売所を利用でき、今や、県民にとって直売所に行くことはレジャーの一つになっています。以上のような背景が、水産物直売所の売上を支え、その直売所を活用している漁業者が多いという理由といえます。

3. さらなる直売所の活用

近年、6次産業化の取り組みが活発になっていますが、一般的に販路の開拓が課題となっています。その点、直売所は6次化商品の販路としてはもちろん、テストマーケティングの場としても機能します。開発した6次化商品を売り場に置かせてもらうことは比較的容易にできますし、また、生産者が売り場に行ってお客様の反応を直接確かめることもできます。このような点で、直売の盛んな福岡県の漁業者が6次産業化に取り組むアドバンテージは大きいと言えます。

今後、直売所が起点となり、飲食店と取引するといった活用も考えられます。福岡県のメリットを活かした取り組みを、県としても支援していきたいと考えています。



イベントでの対面販売の様子

 **漁師列伝** No.8

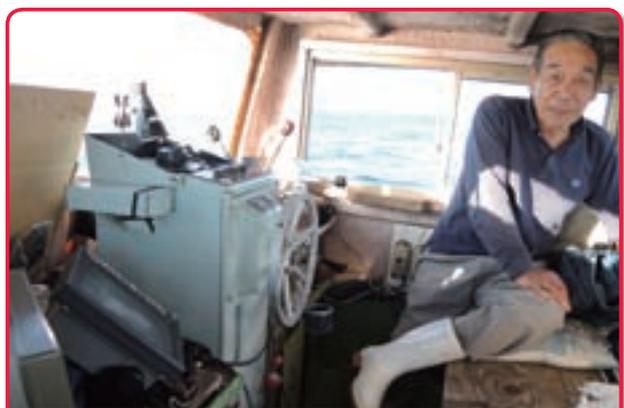
明るい漁業の未来に向けて ～孫へつなぐ漁業の夢～

開発調査センター 山下秀幸, 宮原 一

三重県で唯一の沖合底びき網漁船である第十八甚昇丸の漁労長石倉 實さんは、先祖から受け継ぐ二十五代目の漁師です。父親の代にはまき網漁業を営んでおり、小学校のころから船の仕事を手伝うのが楽しく、船酔いとも無縁だったそうです。24歳の時に漁労長を任されてからは、長年まき網船団を仕切ってきました。

「近年は日本の漁業に勢いのあった頃とは違い、大量投資、大量漁獲の時代ではない」との考えから、船や乗組員を多く要するまき網漁業から15年ほど前に底びき網漁業への転換を図りました。

んと寂しい町であることか」と感じたそうです。そこで、何とか町おこしができないものかと、仲間と漁獲物を持ち寄って産直販売を試みました。当初は集客力もなく、魚は集まっても人が来ないという状況が続きました。そこで、地元の観光協会とも協議し、町議会へも話を持ち込み、企画の改善や予算獲得へとつなげていきました。その成果が実り、今では水産物のみならず、農産物や地域の特産品が多く出品される「きいながしま港朝市」として定着し、毎回地域内外から多くの方が訪れています。



操業中の石倉漁労長



漁獲物の取り込みは丁寧かつ迅速に

地域活性化に向けて

平成11年から6年間は、紀伊長島漁協の組合長を任せ船を下りていました。若い頃から沖へ出る生活が長かったため、初めての陸暮らしをし、「我が地元の長島は、な

持続的漁業のために

組合長を退任してからは、再び舵をもち沖へ出る生活へと戻りました。資源を大切にせねばならないとの思いから、それまでは漁獲されても投棄していたナマコに着目

し、現在では中国向けとしての出荷の他、大学とも連携してその有効成分を化粧品への利用にもつなげています。魚が獲れない時はナマコを獲る、そうすることによって漁業経営を維持し、かつその間の漁場への漁獲圧を低減するため、資源の保全にも貢献できます。



活魚は1尾1尾丁寧にエア抜きをする

この地区の底びき網漁業の主要魚種の一つであるニギスは、地域では欠かせない干物原料です。しかし価格の変動が大きく、水揚げが多いと単価が落ち込みます。例えば100ケース水揚げしても50ケース水揚げしても量に応じて単価が変わるので、水揚げ金額はさほど変わりません。同じ水揚げ金額を得るのに、魚を大切に少なく水揚げした方が将来に繋がります。そこで同じ漁場を利用する底びき網の船頭さん達に提案し、将来に向けて資源を維持し価格を維持するためにも、むやみに魚を獲るのではなく、お互い相談して水揚げ量を調整しようとしています。ニギスに限らず、魚の価値をいかに引き出して、さらに付加価値をいかに付けて消費者に届けるかが、これからの時代には重要となります。

次世代へつなぐ漁業の夢

このように地域や漁業の活性化に励んできましたが、残念ながら後継者となる息子さんはいませんでした。しかし、嬉しいことに、水産高校へ通うお孫さんが将来跡を継がれるとのことでした。孫に譲る船を確保するために様々な工夫を取り入れた新船建造も予定し、効率的な漁網の開発にも積極的です。各地で漁業者の高齢化や後継者不足が危惧されるなか、石倉さんはしっかりと将来を見据えています。お孫さんに船頭を任せ後は、ニギス等の干物を作る仕事を始めたいとの将来像を私たちに語ってくれました。

今回、漁具計測のため乗船させて頂きましたが、石倉漁労長の下で働く乗組員は全て20代で、皆さん目を輝かせてとっても良い顔をして体を動かしている姿が印象的でした。漁業の将来もまだまだ期待できると感じました。



主要な漁獲物は直ちに冷海水にて冷却

石倉さんは俳句も嗜まれるとのこと、地元出身の俳人に因んだ三浦樗良顕彰祭で大賞を受賞された他、海や漁をテーマにした句で何度も入賞されているそうです。

「沖へ出て 海一面の 月光下」 石倉 實

“生命のスープ（潮騒）”

～「遠洋かつお一本釣り漁業」伊豆列島東沖海域にてビンナガ釣獲風景（船尾甲板）～

開発調査センター 浮魚類開発調査グループ 澤田克彦



毎年5月には、鰹の群れの後を追って、9～10kgクラスのビンナガが回遊してくる。それをソナーで探知し、生きイワシの撒餌で浮かせ釣獲する。船べりから射出する散水の音にビンナガのドスンという落下音、ベルトコンベアのうなりと尻尾がシューターをたたくバラバラという断続音が断末魔の悲鳴に聞こえ、撒餌に歓喜するオオミズナギドリたちの声に交じり、腹に響くエンジンの音、息を止めて竿を跳ね上げる船員たちの声なき唸り、活気と生命力にあふれた光景は人を魅了して已まない。

沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会ニュースレターNo.024（2017年2月発行）

編集：国立研究開発法人水産研究・教育機構 開発調査センター

沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会

会長：後藤友明（岩手大学農学部 三陸水産研究センター）

副会長：牧野光琢（国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 経営経済研究センター）

事務局

〒220-6115

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3クイーンズタワーB棟15階

国立研究開発法人水産研究・教育機構 開発調査センター 清水, 小田

TEL：045-227-2722～2724, FAX：045-227-2705

E-mail：biz@jamarc.go.jp

<http://jamarc.fra.affrc.go.jp/enganbiz/enganbiz.htm>

本研究会およびニュースレターの内容に関するお問合わせは、事務局までお願いします。皆様からのご意見や提案もお待ちしています。

表題画：澤田克彦（開発調査センター）

掲載シリーズ

- ・地域の取り組み事例
 - ・漁具診断
 - ・開発調査の現場から
 - ・漁師列伝
 - ・普及指導の現場から
- 皆様からの投稿もお待ちしています。

沿岸域における

検索